

# らしらく

自分らしく、  
粋なくらし

CLOSE UP

## Welcome ひろしま

CLOSE UP 01



特定非営利活動法人Peace Culture Village  
外国人に広島をもっと伝えたい！  
平和学習・観光と幅広いプログラムを实践

CLOSE UP 02



広島ハワイ文化交流プロジェクト  
150年前の移民をきっかけに学生が行う  
広島とハワイの交流

CLOSE UP 03



一般社団法人Hello Hiroshima  
住民が、訪れた人へさりげなく声を掛けられる  
優しいまちになることが目標

連載

- ▶らしらくレポート 外国人材の支援～広島と世界をつなぎ、未来と夢の実現をサポート～
- ▶らしらくコラム G7開催による広島への経済効果 ▶ようこそ！公民館へ～南区内公民館～ ▶人材バンク 名人 宝人 達人
- ▶Hmi助成団体決定！ ▶Hmi助成支援団体のご紹介 ▶情報の森 ▶プラザ通信



# らしっく contents



## 外国人に広島をもっと伝えたい！ 平和学習・観光と幅広いプログラムを実践

平和記念公園ツアー参加者とスタッフ

# WELCOME ひろしま

CLOSE UP

令和5年5月19日から21日まで「G7広島サミット」が開催され、広島への注目度が上昇しています。観光や留学で広島に来た外国人に、広島ならではの時を過ごしてもらえるよう活動している団体を紹介します。

## 特定非営利活動法人Peace Culture Village

<https://peaceculturevillage.org/>

### 特別な場所「ヒロシマ」から 世界の人々に伝えたいこと

一人ひとりにとって平和な世界を構築するための役割、ビジョンを磨くための機会・場所づくりをメインに「平和都市広島」だからこそ伝えられることを発信している特定非営利活動法人Peace Culture Village。平成26年に三次市の古民家を拠点に活動を



▲ 平和記念公園ツアーの様子

開始し、現在は広島市に移転しています。元平和文化センター理事長で、アメリカと日本を歩き来しながら、平和に関する講演を各地で行う代表のステイブ

ン・リーパーさんと他6人のスタッフで運営しています。

主な活動は、広島市の若者が修学旅行生へ平和記念公園のガイドをする平和教育や、そのガイドを務める29歳以下のピースパディの育成、ARアプリ「ヒロシマの記憶」を用いて紹介する被爆前のまち並み、人々の暮らし、被爆証言の体験談の継承など。また、海外からの留学生を対象にしたプログラムもっており、訪れた人々に被爆前、被爆当日、被爆後、そして広島がどうやって立ち上がり、復興していったのか、自分にはいったい何ができるのかを考えていくツアーを行っています。「ツアーを行う際には、いかに自分事として捉えてもらえるか、ということを大切にしています。その為、どう伝えるのか考えるだけでなく、どう相手に伝わるとより深い学びになるのか意識して接しています」と話すのは、平和教育事業統括ディレクターの山口晴希さん。

過去をしっかりと学んでもらいながら、そこから見えてくる未来をどう描いていくのか考えてもらうことが重要だと思っており、「ネガティブな感情だけで終わるのではなく、自分に何ができるのか向き合っ



▲ アメリカで折った折り鶴を原爆の子の像に献納

対象に平和記念公園ツアーとワークショップを開催。令和5年度はインドネシアの学生の来日が予定されています。

### 人から学べることは無限大 観光人\*に会いに行こう

また平和活動の一環として、広島で自分らしく平和な暮らしを実践する、さまざまな人に会いに行くプログラム「PEACE QUEST」という取り組みも行っています。

湯来町の牧場や、大崎上島のレモン農家、尾道のカフェオーナーなどの生き方を通して平和な世界に触れることを目的としており、参加者はその地域ならではのさまざまな体験をします。サイクリングで島を巡ったり、農園で野菜を収穫し、その野菜を調理して食べたり。受け入れてくれる地元の皆さんの「日常の幸せ」を体験し、自分たちの幸せについて考えます。「平和に正解はありません。さまざまな形の生き方に触れることで、自分の環境を知ることができる。そこから自分でできることを受け身にせず、どんどん表してもらえたら」と山口さんは思いを馳せます。いつもの暮らしを見てもらうことで親近感も湧き、いろいろな事がイメージしやすい為、コロナ禍が明けた今、外国人観光客に積極的にすすみたいプロジェクトだと感じているそうです。

私たちのまち広島を世界中の人々に伝えるべく、皆さんの活動がますます飛躍することが楽しみです。

※観光人：広島で自分らしく平和な暮らしを実践する人（同団体の造語）



▲ 多彩な観光人たち

### 特集

## 01 Welcome ひろしま

▶ 特定非営利活動法人Peace Culture Village



留学生のワークショップの様子

▶ 広島ハワイ文化交流プロジェクト



広島でお好み焼き作りの体験をするハワイの高校生

▶ 一般社団法人Hello Hiroshima



外国人観光客と談笑するメンバー

## 05 らしっくレポート ひろ記者が行く

▶ 外国人材の支援  
～広島と世界をつなぎ、未来と夢の実現をサポート～

### らしっくコラム

▶ G7開催による広島への経済効果  
広島修道大学 商学部 川原 直毅 教授

## 06 ようこそ！公民館へ

▶ 南区公民館

## 07 人材バンク 名人 宝人 達人

▶ リトミック・音楽レクリエーション 水口 聡美さん  
▶ 言の葉工房 '和' 主宰 滝 和子さん

## 09 Hm助成団体決定！

## 10 Hm助成支援団体のご紹介

▶ 図書ボランティア わらっと  
▶ ひだまり

## 11 情報の森

## 15 プラザ通信



# 150年前の移民をきっかけに学生が行う広島とハワイの交流

## 広島ハワイ文化交流プロジェクト

### 先人たちが築いた歴史を伝え、後世へ残す

平成25年、広島経済大学のひとりの学生が「ハワイで広島のお好み焼きを広めよう」と思い立ち始めたのが、現在の「広島ハワイ文化交流プロジェクト」の原点です。プロジェクトを進めるために広島とハワイの交流の歴史を調べる中で、19世紀末、日本・ハワイ両政府主導でハワイに労働者を送り出す「官約移民」という制度によって日本各地から約2万9千人がハワイへ渡り、そのうちの38%にあたる約1万1千人（最多）が広島県出身者であることが判明。サトウキビや砂糖生産のために労働者として送り出された日本人をルーツに持つハワイの日系人には、広島に縁のある人が多い事実を、ハワイと広島の若者に知ってもらうことを活動目標に定めるなど、プロジェクトは大きく舵を切りました。

現在プロジェクトには、1～3年生までの35人の学生が在籍。プロジェクト開始以来、毎年1、2回、10人ほどの学生がハワイを訪問していましたが、令和2年に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ハワイ渡航が直前で中止に。その後はオンラインでハワイの高校生と交流したり勉強会を開催するなど、できることを探して懸命に活動をつないできました。そして令和4年9月ようやくハワイ渡航が再開し、令和5年2月には再開後2回目のハワイ訪問を行いました。

### プロジェクトの企画から学生が主体的に活動

約10日間のハワイ滞在中、学生たちは、現地の中学校・高校や広島県人会を訪ね、ハワイへの移民の歴史、広島市の歴史や文化、今の姿を伝え、ハワイの若者たちに広島を訪れて欲しいという気持ちを伝えています。その全ての訪問計画は学生たちが作成、現地の学校の先生方と連絡調整し、渡航に関する予約実務等は旅行代理店担当者や取り取り行っています。国際交流・



▲ ハワイの高校生を「スタディツアー」で案内する様子



▲ ハワイの高校を訪問し、交流を深める様子

社会貢献・地域活性・経済活動などで学生が集団で活動に取り組み、「何か」を達成するという広島経済大学興動館プロジェクトの指針のもと、プロジェクトの企画から実行まで、全般において学生が主体的に活動を進めています。

現在プロジェクトリーダーを務める3年生の和田健人さんは「このプロジェクトに参加するまで、ハワイはリゾート地のイメージしかなく、多くの日本人、しかも広島から移民がハワイに渡っている事を知りませんでした。実際にハワイに行き、移民の歴史を学び広島市の若者に伝えたと同時に、ハワイの若者に広島を深く知ってもらうことで、双方の若者の交流がこれまで以上に活発になってくれたらうれしいです」と言います。

また、現地で交流を深めているハワイの生徒を広島に迎えて、文化交流や平和学習をテーマとした「スタディツアー」を実施したり、広島県内の高校生に、広島からハワイへの移民の歴史を伝える授業を行うなど、両地域の若者が行き来するきっかけ作りをしています。

「ハワイの人たちと会話を重ね、私たちの活動に賛同していただいたり、喜んでくれたりする瞬間に、やりがいや喜びを感じます。現地で聞いた移民の歴史や経験を、自分たちの学びだけにとどめることなく、それらを広島・ハワイの若い世代にきちんと伝えていきたいですね」と和田さんは、プロジェクトの今後の役割を語ってくれました。



▲ 宮島でもみじ饅頭作りを体験する様子

# 住民が、訪れた人へさりげなく声を掛けられる優しいまちになることが目標

## 一般社団法人Hello Hiroshima

<https://hello-hiroshima.com>

### 広島をよく知る地元住民による外国語のおもてなし

平成22年に行われた国土交通省の調査で明らかになった、広島駅で路面電車やバスへの乗り換えに困っている外国人観光客が多いという問題。その状況を少しでも解消するために、英会話ができる人がサポートしようと、平成25年に発足したのが、前身となる活動「ひろしまおもてなし隊」です。翌平成26年に活動名を「Hello! Hiroshima Project」へ変更し、さらに令和2年に「一般社団法人Hello Hiroshima」へと組織改編し活動を続けています。

「一般社団法人化直後から、新型コロナウイルス感染症が拡大。広島を訪れる外国人観光客も減少し、団体としての広島駅での活動は、ほぼ停止状態になりました。しかし令和4年11月頃から少しずつ観光客が増え始め、令和5年春頃からは急増。G7広島サミット後もかなりの勢いで増え続けています」と事務局の岡本泰志さん。

「困っている旅行者を放っておかない広島」をビジョンに掲げ、毎週金曜日・土曜日の朝10時から12時まで、赤いビブスを着用しIDカードを着けたメンバー 10～15人が、広島駅構内で困っている様子の外国人に積極的に声を掛けて、道案内をしています。今年に入ってから外国船籍のクルーズ船も頻繁に広島へ寄港。平和記念公園周辺を散策する外国人観光客も増えていることから、紙屋町周辺で案内をするサポートも始めています。

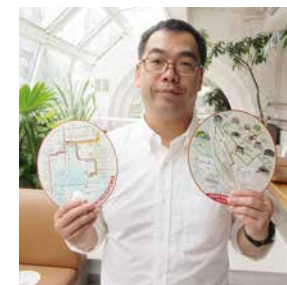


▲ 広島駅で外国人観光客を案内する様子

### コロナ禍の試行期間から生まれた新しい企画 日本人と外国人の架け橋に

「コロナ禍ではメンバーそれぞれ、自分たちは何をすれば良いのか。やり場のない苛立ちも感じていました。それは、誰かのために役立ちたいという強い思いがあったからこそです。活動を止めようとは思いませんでした。その中で考え生まれた企画が「Hiroshima Travel Buddy」や「Chat with the Locals～Airbnbオンライン旅前体験～」です。「Hiroshima Travel Buddy」は、宮島や原爆ドームなどの観光地を巡るだけでなく、もっと気軽に広島の日常や歴史、自然に触れる企画で、広島のローカルな人

が伝える普段の広島がコンセプト。コロナ禍が明け、インバウンド客が戻ってきても対応できるように、活動停止状態の間もメンバー同士でまち歩きのリハーサルを繰り返していました。また「Chat with the Locals」は、旅で訪れる前にオンライン上で広島の人と話しながら広島のことを知ってもらうプログラム。ガイドブックには掲載されていない地元住民しか知らない情報を発信し、興味を持ってもらったそうです。



▲ 理事の岡本泰志さん

「私たちが取り組んでいるのは、大げさなことではありません。自分が海外旅行をした時、右か左かなどちょっとした事で不安な気持ちを持つこともあると思います。その時、声を掛けてもらうだけでも気持ちが楽になるじゃないですか。そうした思いやりが、当たり前のように交わされるまちになればいいと願っています」。

5月に開かれたG7広島サミットでは、海外から訪れる人たちを案内する学生ボランティアの研修も担うなど、活動の幅を広げています。今後は、広島に住む、地元住民と外国人が日常生活の中で交流を持てるよう、新しい取り組みも考えています。日本人と外国人の架け橋となるよう、活動を続ける皆さんの強い思いは、優しいまち広島の実現に大きく近づくことでしよう。



▲ コインロッカーの使い方を説明



▲ G7広島サミットの学生ボランティアに研修する様子